

共同研究奨励金助成グループ

「東アジアにおける民族主義の歴史的体験とその意味—『プランゲ文庫』を起点に考える」(2013年～2015年)

本共同研究は「プランゲ文庫と東アジア」(2009年—2012年)の共同研究の第二期事業として継続するものである(「プランゲ文庫研究会」に略称)。以下、共同研究の目的の部分を紹介し、2013年度の活動を略記する。

「研究目的：①神奈川大学図書館に所蔵されている貴重文献「プランゲ文庫」を起点にしつつ、第二次大戦終了後の東アジアにおける民族主義の歴史体験とその意味を軸とするより幅広い、深度のある研究を目指す。②個々の研究者の関心その他也考慮して、日本の敗戦、連合国軍の占領統治にはじまる日本、南北朝鮮、中国、台湾の各領域の国際的な絡み合い、そこにおけるそれぞれの政治、社会、文化、などの問題を相関的かつ総合的に理解できるような共同研究をすすめる。③できる限り具体的な形で考察を深めていくが、大きくは植民地主義の質的把握、激変する国際関係における脱植民地化の相違、東アジアと非東アジア世界との対比といった問題意識を抱えながら、個別的には、民族主義の歴史体験を国家(権力)と民衆の双方から見つつ、同時に旧宗主国と旧(半)植民地のあいだにおける国際関係および民衆相互間の関係を捉えたい。④個別の研究者の関心にしたがって、より微細に言うなら、上にあげた前提条件のもとに、民族ないしは国民のアイデンティティ形成の問題、統治側における民族ないしは国民の政治・行政的掌握と関連する民族意識・国民意識の造成、在日朝鮮人や華僑と関連する旧植民地出身者ないしは外国人管理の問題、それに「祖国復帰」の形をとった沖縄の問題などについて追究し、全体として、共同研究の趣旨に沿った成果を目指す。」

- (1)『戦後日本と中国・朝鮮—「プランゲ文庫」を一つの手がかりとして』(研文出版、2013年3月)の刊行



論文編	
在日朝鮮人運動と日本共産党—階級か、民族か—	尹 健次
GHQ 占領期日本における朝鮮メディアの世界—機関紙と雑誌に関する書誌的分析	小林 聡明
戦後期日本における中国人留学生の生活難と政治姿勢をめぐる葛藤—救済金問題を事例に	王 雪萍
戦後台湾人留学生の活字メディアとその言論の左傾化	何 義麟
戦後上海日本資産の接収と処理	陳 祖恩

上海の『亜州世紀』が見た戦後日本の政治	孫安石
日本の新聞・雑誌に見る昭和天皇の戦争責任	朴晋雨
吉田書簡から日中共同声明へ―捨てられた先達の苦心	田畑光永
資料編	
在日朝鮮人刊行雑誌（朝鮮語）記事リスト	小林聡明
終戦直後における中国人日本留学生に関する年表	田遠
日本に於ける中国関係雑誌記事目録一九四五～四九年	大里浩秋

(2) 2013年4月17日の研究会開催

場所―神奈川県立神奈川大学人文学研究所会議室

報告：(1) 「日韓歴史摩擦の政治学」李元徳（韓国・国民大学日本研究学研究所）

コメンテーター 尹健次, 大里浩秋, 孫安石, 阿部浩己, 小林聡明, 泉水英計

(2) 日本学術振興会・日韓共同研究「冷戦期日韓におけるアメリカ」の紹介（土屋由香, 愛媛大学）

(3) プランゲ文庫年度計画について



(3) 2013年5月8日の研究会開催

場所―神奈川県立神奈川大学 17号館 23室

報告：(1) 報告：「戦後日本の賠償問題と歴史認識問題の起源」浅野豊美（中京大学, 国際教養学部）

コメンテーター 尹健次, 大里浩秋, 孫安石, 阿部浩己, 小林聡明, 泉水英計

(2) 中国・上海会議について

(3) 共同研究グループの趣旨説明「東アジアにおける民族主義の歴史的体験とその内容―『プランゲ文庫』を起点に考える」



(4) 合評会の開催『戦後日本と中国・朝鮮』（研文出版，2013年）

日時—2013年7月3日（水）

場所—神奈川大学人文学研究所会議室

報告：(1) 合評会コメンテーター：伊藤一彦（中国研究所 理事），何義麟（台湾・国立台北教育大学），王雪萍（東京大学），尹健次，大里浩秋，孫安石，阿部浩己，泉水英計，小林聡明（韓国・慶熙大学）

(2) 会議—2014年開催の愛媛大学科研・日韓共同研究とのジョイント・シンポについて検討。



(5) 2013年9月25日の研究会開催

「沖縄と日本・アジアを考える」

日時：2013年9月25日（水）

(1) 『沖縄「韓国人慰霊塔」建立の背景と南北分断の現実』小林聡明（韓国・慶熙大学）

(2) 研究動向紹介「ジョージ・カー（George H. Kerr）と沖縄研究の周辺」泉水英計（神奈川大学）

(3) 「沖縄戦後史と沖縄人アイデンティティについて」波平恒男（琉球大学）

(4) 「沖縄出身台湾経験者と沖縄の「戦後」復興—教育の「戦後」復興と「復帰」運動の担い手たち」大浜郁子（琉球大学）

質疑応答：尹健次，大里浩秋，阿部浩己，小林聡明，泉水英計，孫安石



(6) 2013年12月プラング台湾会議のお知らせ

シンポジウム「戦後日本と台湾・中国について」(共催：日本神奈川大学プラング文庫研究会・台北教育大学台湾文化研究所)

日時：2013年12月6日(金)午後1時—6時

場所：台北教育大学行政大楼 A605 会議

報告：(1) 戦後日本の台湾人留学生について(何義麟, 台北教育大学)

(2) 戦後日本と台湾史研究(鐘淑敏, 中央研究院台湾史研究所)

(3) 戦後駐日中国代表団と華僑(楊子震, 南台科技大学助理教授)

(4) 在日朝鮮人と日本共産党(尹健次, 神奈川大学)

(5) 日本に於ける中国関係雑誌記事目録 1945～49年(大里浩秋, 神奈川大学)

(6) 上海の『亜洲世紀』が見た戦後日本の政治(孫安石, 神奈川大学)

12月7日(土) — 中央研究院近代史研究所, 台湾史研究所の資料調査

12月8日(日) — 台湾 228 記念館, 国立台湾大学図書館の資料調査



国史館(写真中央)と總統府(写真右)

(7) 2014年2月—共同シンポジウム「戦後東アジアにおける知の展開」

日程：2014年2月17日(月)

会場：愛媛大学メディアホール

テーマ：戦後東アジアにおける知の展開

発表者（予定）：

- (1) 「未定」 鄭容郁（ソウル大学）
- (2) 「未定」 池貞姫（愛媛大学）
- (3) 「未定」 尹健次（神奈川大学）
- (4) 「未定」 大里浩秋（神奈川大学）

コメンテーター：阿部浩己，土屋由香，小林聡明，泉水英計，孫安石

共催：神奈川大学プランゲ文庫研究会・愛媛大学二国間交流事業共同研究

※本報告は共同研究グループ「プランゲ文庫研究会」の活動報告を兼ねる。

（文責 孫安石）